

総説 日本医学サイエンスコミュニケーション学会 発足の経緯と第1回シンポジウム

Inauguration of the Japanese Association of Medical Science Communication and the First Symposium

中山健夫¹⁾、孫大輔²⁾、北澤京子³⁾、加藤和人⁴⁾、
秋山美紀⁵⁾、市川衛^{6,7)}、木内貴弘⁸⁾、原木万紀子⁹⁾、

Takeo Nakayama¹⁾, Daisuke Son²⁾, Kyoto Kitazawa³⁾, Kazuto Kato⁴⁾,
Miki Akiyama⁵⁾, Mamoru Ichikawa^{6,7)}, Takahiro Kiuchi⁸⁾, Makiko Haragi⁹⁾

- 1) 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻健康情報学分野
- 2) 鳥取大学医学部 地域医療学講座
- 3) 京都薬科大学
- 4) 大阪大学大学院医学系研究科 医の倫理と公共政策学分野
- 5) 慶應義塾大学 環境情報学部
- 6) 広島大学医学部（公衆衛生）
- 7) 一般社団法人メディカルジャーナリズム勉強会
- 8) 東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻医療コミュニケーション学分野
- 9) 埼玉県立大学保健医療福祉学部 健康開発学科
- 1) Department of Health Informatics, School of Public Health, Kyoto University Graduate School of Medicine
- 2) Department of Community-based Family Medicine, Faculty of Medicine, Tottori University
- 3) Kyoto Pharmaceutical University
- 4) Department of Biomedical Ethics and Public Policy, Graduate School of Medicine, Osaka University
- 5) Faculty of Environment and Information Studies, Keio University
- 6) Public Health and Health Policy, School of Medicine, Hiroshima University
- 7) Association of Medical Journalism Japan
- 8) Department of Health Communication, School of Public Health, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo
- 9) Department of Health Sciences, School of Health Development, Saitama Prefectural University

Abstract

The Japanese Association of Medical Science Communication was established as the sixth subcommittee of the Health Communication Week Organization (HCWO). The similarity between health communication and medical science communication is that they function between medical professionals and patients or citizens. The difference is that whereas health communication focuses on changing behavior to prevent diseases and promote health outcomes, medical science communication emphasizes communicating the results (significance and interest) of medical research, and it enhances social recognition of medical research. We held the first symposium, “Medical Science Communication: Past and Future,” in Health Communication Week 2022 in Nagoya, Japan. We hope that our association—under the umbrella of the HCWO and in cooperation with the other associations—will promote activities aimed at expanding the prospects and deepening insights for communication related to health and medicine.

要旨

日本ヘルスコミュニケーション学関連学会機構（旧日本ヘルスコミュニケーション学会）の第6の分科会として日本医学サイエンスコミュニケーション学会が発足した。ヘルスコミュニケーションと医学サイエンスコミュニケーションの共通点は、医療者と患者・市民のコミュニケーションであること、相違点は、ヘルスコミュニケーションが良い予防、治療行動への変容を主題とするのに対して、医学サイエンスコミュニケーションは医学研究の成果（意義、

面白さ)を伝え、医学研究の社会的認知を高めていくことである。2022年10月のヘルスコミュニケーションウィーク 2022～名古屋～において、本学会主催シンポジウム「医学サイエンスコミュニケーションの今まで・これから」を開催した。新たに発足した日本医学サイエンスコミュニケーション学会が、日本ヘルスコミュニケーション学会はじめ他の分科会とも連携し、健康や医療に関わる「コミュニケーション」の展望を拡大し、洞察を深化させていくことを目指して活動を進めたい。

キーワード：医学サイエンスコミュニケーション、マスメディア、理解し易さ、患者・市民参画

Keywords: medical communication, mass media, understandability, patient and public involvement

1. 序文

2009年に研究会として発足した日本ヘルスコミュニケーション学会は、コミュニケーション領域の細分化・専門分化に合わせて、2022年に新たな関連学会の発足と全体の機構化に取り組んだ。その第6の分科会として日本医学サイエンスコミュニケーション学会が発足した。ヘルスコミュニケーションと医学サイエンスコミュニケーションの共通点は、医療者と患者・市民のコミュニケーションであること、相違点は、ヘルスコミュニケーションが良い予防、治療行動への変容を主題とするのに対して、医学サイエンスコミュニケーションは医学研究の成果（意義、面白さ）を伝え、医学研究の社会的認知を高めていくことである。

日本医学サイエンスコミュニケーション学会は大きく次の3つの課題を掲げている。

1. 医学者が、医学を市民に伝え、市民の医学リテラシーを高める手助けをすること
2. 市民が、市民の医学への思いを医学者に伝え、医学者の社会リテラシーを高めること
3. 医学者と市民が、医学と社会の望ましい関係について、ともに考えていくこと

2. 第1回学術集会・第1回シンポジウムの開催

ヘルスコミュニケーションウィーク 2022～名古屋～において、本学会の第1回学術集会の企画として第1回シンポジウムを開催した（2022年10月2日）。「医学サイエンスコミュニケーションの今まで・これから」と題し、本学会運営委員の中山と孫が座長、北澤、秋山、市川、招待演者として加藤（シンポジウム後、運営委員就任）、指定発言に木内を加えた5人の演者がそれぞれの視点から講演を行った。詳細は各演者による総説を参照されたい。

- ・北澤京子 「医学サイエンスコミュニケーション:2つの視点」
- ・加藤和人 「医学サイエンスのコミュニケーション：倫理・政策・患者参画」
- ・秋山美紀 「医学系の研究教育機関の情報発信とメディア報道」
- ・市川衛 「医学研究をわかりやすく伝える研究」から見えてきた、医療科学コミュニケーションのポイント」
- ・木内貴弘 「ヘルスコミュニケーションと医学サイエンスコミュニケーションの違い」

シンポジウムでは、多様な視点から医学のサイエンスを基点とするコミュニケーションを巡る話題、その可能性と展望について発表され、演者間およびフロアの参加者も交えて熱心なディスカッションが行われた。

3. 結語

日本医学サイエンスコミュニケーション学会の発足の経緯と第1回学会でのシンポジウムの概要を報告した。盛会であった第1回シンポジウムを踏まえて、運営委員会では第2回シンポジウムの企画を検討している。次回もヘルスコミュニケーション学関連機構の他の分科会との相乗効果を期待して、多くの方々のご参加を願っている。

謝辞

第1回本学会学術集会・シンポジウムの機会をいただいたヘルスコミュニケーションウィーク 2022～名古屋～総大会長・第14回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会大会長の阿部恵子先生はじめ、学術集会の準備・運営に当たられた皆様にこの場をお借りして、改めて感謝を申し上げます。

研究資金

無

利益相反自己申告

無

引用文献

無

***責任著者 Corresponding author : 中山健夫 (e-mail nakayama.takeo.4a@kyoto-u.ac.jp)**